



株価が相対的に高い水準にある中、積立投資を始めてもいいの？



積立投資は「いつ投資をスタートするかをあまり悩まなくてよい」投資方法です。

株価が高値圏で推移している局面では投資を始めるのは怖いと思われる方が多いのではないのでしょうか。しかしながら、時間を味方にコツコツと資産を効率的に増やしていける投資信託の積み立てであれば、**いつ投資をスタートするかをあまり悩まなくてもよく、投資に対する不安を軽くする投資方法**といえます。

たとえば、日本を代表する株価指数「日経平均株価」を例にみてみましょう（下図）。同指数が最高値を付けた1989年12月や、その後の高値となった1996年6月、2007年6月のそれぞれの時期から積み立てを始めたとしても、積立投資では投資資金を上回る結果となりました。定期的に一定額を購入する積立投資において、価格が下がったときに多くの口数を購入できることで、その後、価格が上昇した場合、評価額が大きくなるという効果が期待できます。なお、投資信託の値動きによって、「積立投資」よりも「一括投資」の方が結果的に有利な場合や、運用成果が投資した資金を下回ってしまうケースもありますので注意が必要です。

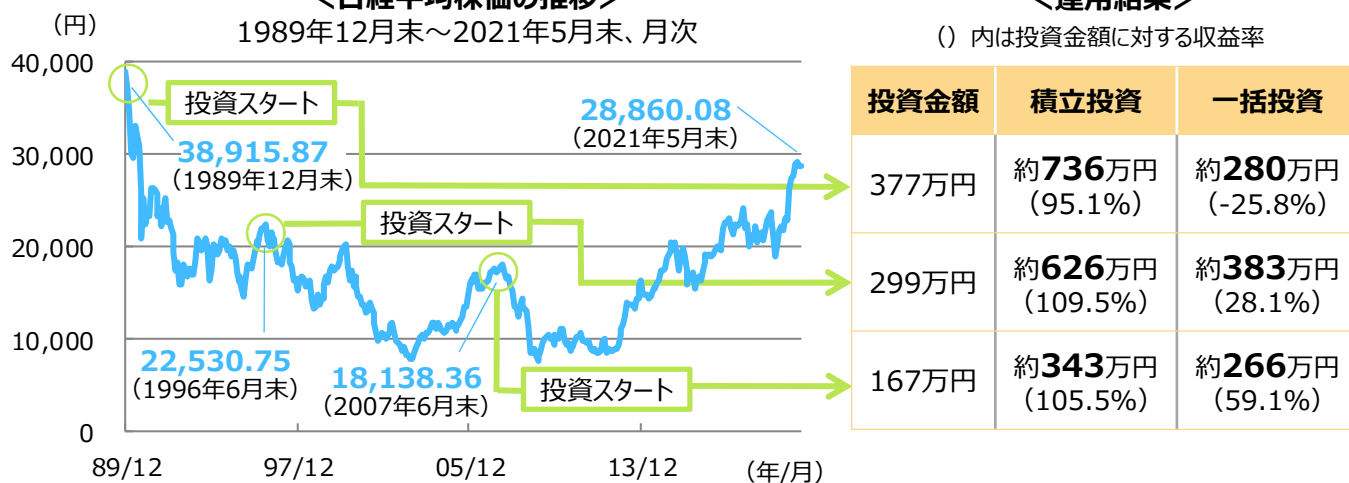
日経平均株価に毎月1万円の積立投資した場合は？

＜日経平均株価の推移＞

1989年12月末～2021年5月末、月次

＜運用結果＞

() 内は投資金額に対する収益率



(注) 運用結果は2021年5月末現在。積立投資は「毎月1万円」を毎月末に月末値で投資したと仮定して計算（経費等は考慮していません。）。ただし、最終月は投資しません。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※ 上記は過去のデータを基に当社が行ったシミュレーションの結果であり、実際の投資成果ではありません。一定の前提条件に基づくものであり、経費等は考慮されていません。また、将来の成果を示唆あるいは保証するものでもありません。

※ この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DS アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。